

医療経済実態調査（医療機関等調査）に係る主な論点（案）

1. 回答率の改善

平成 21 年 10 月 30 日 中医協総会

これに当たったら、よほどの理由がない限り必ず回答をしてもらう。逆に回答ができないのであれば、回答できない理由を書いて提出してもらうぐらいを保険医療機関としての責任としてやってもらえないものか、回答率の改善に向けてその点をお願いしたい（勝村委員発言抜粋）

平成 21 年 11 月 6 日 基本問題小委

全体の個人医療機関の収益の中で比較的に高いものだけが回答に入っている。そういう回収のところのバイアスがあるのではないか（安達委員発言抜粋）

（回答率のところではバイアスがかかるのではないかとということを上げただけで、どういう形でやるかはいろいろ改善するとして、回答した医療機関に経理処理を公認会計士等に委任しているかどうか、これはイエス、ノーでたった 1 欄でございますから、それぐらいは入れておいていただいたほうが、ある程度そういう取りまとめの回答のところでのバイアスのかかり方を判断する材料になるのではないかと（平成 21 年 11 月 18 日 中医協総会 安達委員発言抜粋）

平成 21 年 11 月 18 日 中医協総会

「第 17 回医療経済実態調査結果報告に関する分析（健康保険組合連合会）」有効回答率が低かったことを踏まえた調査手法の検討（白川委員提出資料抜粋）

平成 22 年 10 月 27 日 中医協総会

回収率を高めるインセンティブというか、少し知恵を出し合う必要があるのかなと思います。例えば回答できない理由を、もしどうしても回答できない場合には少なくとも明らかにしていただく、回答していただくという方法ではないか（中島委員発言抜粋）

どんな医療機関が回答を出しにくいのかも分かるような仕組みにしていたければ、そういったこともデータとしてとれるのではないかと（鈴木委員発言抜粋）

何か知恵を出して、強制的なことはできないということであったとしても、ちょっと仕掛けをつくって、また駄目でしたねということにならないような何か前の調査とは違うものを期待したい（勝村委員発言抜粋）

回収率を上げるためにはこういう不要な項目は要らないのではないかとということも当然議論されるべき（安達委員発言抜粋）

2. 2年分の年間（決算）データの把握

平成 21 年 11 月 18 日 中医協総会

やはり改定直後の年度とその次の年度では、差があるのではないかなということ
を想像いたしますと、改定による影響を正確に把握するためにはやはり調査を毎年行うということが必要ではないか（西澤委員発言抜粋）

平成 22 年 5 月 26 日 中医協総会

究極の形は全医療機関調査で改定の前後年を含む年間データだろうと、そこにどれだけ近づけるかということの努力を予算面の措置も含めて、ぜひお願いしたい（安達委員発言抜粋）

平成 22 年 10 月 27 日 中医協総会

今回は、いよいよぜひ2年間の直近の年間データを調査していただいて、より改定の影響がはっきりと分かるような形にして、それを資料にできるようにしていただきたい（鈴木委員発言抜粋）

3. 定点調査

平成 21 年 11 月 18 日 中医協総会

診療報酬の低いところと真ん中あたりと高いところというふうな、適正な配分で定点をとって比べていく（安達委員発言抜粋）

定点がもう少し多くないと、なかなか実質的な変動というのがわからないのではないか（邊見委員発言抜粋）

4. 客体の抽出

平成 21 年 11 月 18 日 中医協総会

要するにサンプル数が少ない（鈴木委員発言抜粋）

平成 22 年 10 月 27 日 中医協総会

それぞれの月によって診療科によって多い少ないといういろいろな患者数の特性がございます。客体数も極めて少ない指摘の中で議論されたということで、その辺の改善も含めてお願い申し上げておきたい(安達委員発言抜粋)

平成 22 年 10 月 27 日 中医協総会

全体の按分が平均に調査されて、結果として、より実態に近い結果を出していただくような工夫というものを加えてやっていただきたい(安達委員発言抜粋)

平成 22 年 10 月 27 日 中医協総会

年収別の階層を何段階に分けた上で、その中でのそれぞれの無作為抽出をして、全体の数の配分の中での按分比例をするという考え方もひょっとしたら全体の代表性を得るためには必要ではないか(安達委員発言抜粋)

5. **新たな集計方法(最頻値、標準偏差、地域別の損益等)**

平成 21 年 11 月 6 日 基本問題小委

これはあくまでも平均値だけなのですよね。この分布をぜひ、特に収支差額等もろもろなんですけれども、その分布を出していただきますと、本当に平均値が代表しているかどうかという姿が見えてきますので、例えば最頻値とかそういうものをこの場に出ししていただければ(渡辺委員発言抜粋)

平成 21 年 11 月 18 日 中医協総会

本当にこういう解析しようと思えばもちろんのこと、標準偏差あるいは区間設定、ヒストグラム等々非常にたくさんの分析手法を使わないといけない(安達委員発言抜粋)

平成 21 年 12 月 18 日 基本問題小委

(地域特性への配慮についての議論で)医療経済実態調査の中でそういったことも視点に置いて調査設計をする検討はさせていただきたい(佐藤医療課長発言抜粋)